企画・制作 埼玉新聞社クロスメディア局

SDGs
# みらいものさし
＜特別企画＞
モノ・コトの始まり ここから
2021.3 Vol.6

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

# 気軽に乗れる「日常の足」をシェアする？

自転車は、古くて新しい乗り物です。日本全体の自転車保有台数は７０００万台を超えるといわれ、気軽に乗れる「日常の足」として、老若男女を問わず、多くの利用者がいます。

今、新型コロナウイルスの感染を避けるため、自転車通勤が広がっています。三密を避けながら、体力づくりや健康のために自転車を楽しむ人も増えているとか。

自転車は二酸化炭素を排出しない交通手段で、健康増進や交通渋滞の緩和、災害時の移動や輸送の確保にもつながるとされ、国は自転車活用推進法に基づいて、各自治体に自転車の積極的な活用を求めています。

こうした中で、新たな交通サービス「シェアサイクル」が人気です。コロナ禍で「快走」する自転車活用を考えます。

# コロナ禍で広がる利用
# 自転車の良さを生かしたい

## 環境にやさしく、健康増進

安全を確保するには、自転車レーンなど走行環境の整備が鍵を握る

通勤に自転車を使う人が増えている。新型コロナウイルスの感染を避けるためだ。

「満員電車に乗らなくなって、感染の不安が薄れた。冬場はきつかったが、仕事前の運動は、気持ちを切り替えるスイッチになる」。昨年秋から自転車通勤を始めた佐藤摩衣さん（29）は、東京都北区の自宅から川口市の職場までの約7キロを、毎朝約40分かけて快走する。

環境にやさしく、健康増進の効果もあり、観光振興や都市部の交通機関の混雑緩和にもなる。そんな自転車の良さをもっと活用しようという動きが活発だ。

２０１７年に施行された自転車活用推進法に基づき、政府は啓発に取り組んでいる。街中の拠点に置かれた自転車を共用する「シェアサイクル」や、三密を避けて気ままに観光を楽しむ「自転車ツーリズム」が広がりつつある。観光振興や地域活性化など、自転車をまちづくりに生かそうと自治体も積極的だ。

さいたま市内に勤務する廣瀬智さん（57）は、業務でシェアサイクルを利用するようになった。「近くのコンビニにサイクルステーションができて、駅まで歩く時間を考えると、自転車が早くて便利。ちょっとした運動にもなって一石二鳥」。経費削減や業務の効率化につながると、会社もシェアサイクルの利用に積極的だ。万一の事故にも賠償保険付きで安心、という。

## 走行環境の整備がカギ

### 公共交通を補完する

熊谷市は、２０１９年６月から昨年５月まで、自転車シェアリングの社会実験を行った。市内４カ所にサイクルステーションを設置して、50台の自転車を配置。ラグビートップリーグなどの試合開催日には、臨時のサイクルステーションを増設し、自転車を１００台に増やした。

通常時50台での総利用回数は１６３１回で、稼働率は６％。これに対し、ラグビーＷ杯を含めた試合開催日１００台での稼働率は、79％だった。みると、人気チームの試合日には稼働率が跳ね上がる。報告書は、手軽に利用できる身近な交通手段として、公共交通を補完する役割に一定の効果がある、としている。

どの駐輪場からでも貸し出し、返却ができる。決済などには、スマホのアプリを使う

ラグビートップリーグのパナソニックワイルドナイツが、熊谷に本拠地を移す。強くて人気のチームだけにファンが大勢やってくるだろう。熊谷ラグビー場までのバス輸送を補完する交通手段として、シェアサイクルに期待がかかる。

チーム移転を受けて、民間からシェアサイクル事業に参入する動きもある。「自転車利用は、周辺地域の回遊性の向上や地域活性化につながる。ラグビータウンの新しいまちづくりを提案したい」。ゴトーグループ（熊谷市）の後藤素彦代表は新たな事業に意欲を燃やす。

ただ、走行台数が増えれば事故のリスクは高まる。自転車の「快走」は、自転車レーンなどの走行環境の整備にかかっている。

## 自転車とラグビー　街づくりに

熊谷は、２００７年に「日本一暑い街」になって全国に知られるようになりましたが、一方で「住みたくない街」にもランキングされました。これらを逆手にとって、現在は暑さ対策で日本一を目指しています。

市内には、温暖化対策や省エネなどの環境問題に取り組む団体がたくさんあります。環境団体をネットワークして、熊谷の街をもっと元気にしようと立ち上げたのが、ＮＰＯ法人エコネットくまがやです。

活動を始めたのは２００８年です。廃棄された自転車を買い上げて、修理・整備。25台ほど集めた自転車を、市内で開かれるイベントなどの会場で貸し出すレンタサイクル事業や、サイクリングイベントなどを手掛けてきました。

自転車は、環境に優しく、健康増進にも役立つ新しい交通インフラとして注目されるようになりました。また、回遊性を高める観光の足としても期待されています。

後藤さん（中央）、副代表理事の依田英世さん（右）、事務局長の森松寿夫さん。NPO活動を支える仲間であり、後藤さんの会社の社員でもある

環境共生のまちづくり事業
エコくまサイクリングマップ
エコくま探検隊
サイクリング＆人参掘り
5月15日

サイクリングイベントを通じて作成したマップ
（チラシの催しは終了）

## シェアサイクル事業へ

エコネットくまがや代表理事・ゴトーグループ代表
**後藤素彦さん**

熊谷市は「人と環境にやさしい道づくり」を掲げて、自転車道を整備するなど、実は自転車先進地です。自転車のシェアリング事業の社会実験にも取り組みました。

私たちのサイクリングイベントは、自然に触れながら熊谷の魅力を発見するのが目的の一つです。例えば、妻沼地区はニンジンの産地ですから、収穫体験を組み入れ、利根川に今も残る赤岩渡船に自転車と一緒に乗船する体験もしました。

参加した子どもたちは大喜びで、自然や街の魅力を体で感じてくれたと思います。このほかにも、走ったコースの見どころやトイレのある休憩ポイントなどをまとめたサイクリングマップも毎年作っています。

ラグビー・トップリーグのパナソニックワイルドナイツが熊谷に本拠地を移します。ラグビータウンを掲げる熊谷にとって街づくりの好機です。私は企業家でもありますから、ＮＰＯの活動で得た知見を生かして、熊谷をさらに元気にしようと、シェアサイクル事業を計画しています。

パナソニックは、自転車メーカーでもあります。ラグビー場のあるスポーツ文化公園近くと熊谷駅周辺に、シェアサイクルの拠点を作り、パナ製の電動アシスト付き自転車を１００台配置する計画です。ワイルドナイツの名を冠した事業として取り組み、ラグビー観戦や、周辺観光の足としての利用などを見込んでいます。

民間が主体のシェアサイクル事業は全国的にも珍しく、私たちにとってもワクワクする挑戦です。本拠地移転を受けて、市内の事業者には、チームとのビジネス連携を望む声が多くあります。私たちの事業をモデルに、チームとつながって新しいことを作り出すきっかけにしてほしい、という思いがあります。

---

4th Season
## ポンコツ エコ エッセイ 第24回
文・絵 **和田琢磨**

### 『選ぶならこんな店をトン！』

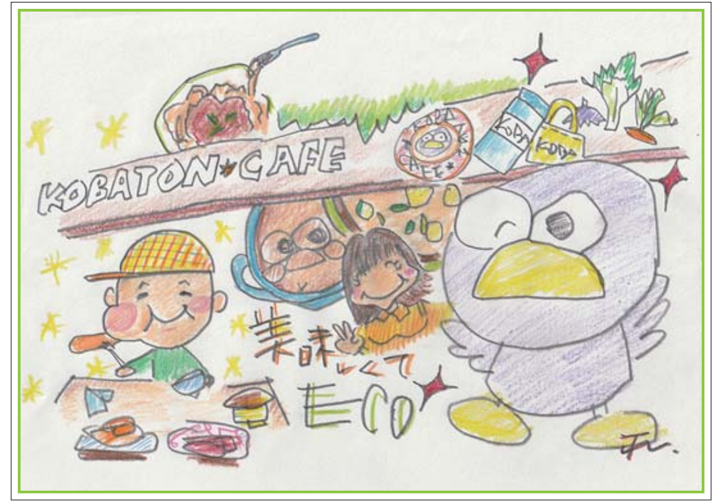
緊急事態宣言が明けましたね。連載初の勝手に取材、敢行しました。コロナ禍でもがんばる飲食店に突撃取材ということで、県庁内にある『world Pizzeria Kobaton＊Cafe』に潜入。笑顔が素敵なオーナーの木原真弓さんに突撃インタビューです。

琢磨（T）「こんにちは！店内は埼玉一色で埼玉愛を感じますね！」
木原（K）「はい！『コバトン屋』というグッズ販売の会社もやっているので、その商品も置いてます」
T「どんな料理を？」
K「ピザやパスタをメインに。埼玉食材を使ったメニューもあるんですよ」
T「地球環境に優しい取り組みってありますか？」
K「ストローを廃止しました。コバトンの保冷バッグをお買い上げいただき、ご持参いただけるとパンとベーグルがずっと5％オフになります。レジ袋削減も推進しています。
　マイボトル持参で、ドリンクのテイクアウトは30円引きです。ピザやパスタのテイクアウトはプラゴミ削減のために紙製を利用しています」
T「おお、それは素晴らしい！」
K「コバトンカフェは、生ごみの量がとても少ないんです」
T「えっ、なぜですか？」
K「お客様には出せない野菜の固い部分や少し傷んだ部分は、賄い料理にして従業員で消費しちゃうからです」
T「素晴らしい！」
K「って、たくまん！なんか真面目でむず痒いんだけど」
T「ははは！」

実は、このお店はにゃんたぶぅの事務所、（株）アルコグランデが経営しているんです。ズコーッ！

それはさておき、外食するなら、こういうお店を積極的にチョイスしたいですよね。感染対策万全に、美味しいご飯で地球にやさしい。ちなみに木原さん、体型の方向性がわたしとかぶっています。まぁ、残さず食べる二人と言うことで！

ここだけの話、コバトンカフェに和田琢磨グッズ売っています。買わなくてもいいけど買ってね。た・す・け・愛っ！うひっ。



【プロフィル】わだ・たくま
音楽アーティスト。蓮田市出身。バンドSweet Beat Swing（後のSweBe）としてメジャーデビュー。NTV系「THE夜もヒッパレ！」にレギュラー出演したほか、数々のCM音楽も手掛ける。現在はソロ活動のほか、にゃんたぶぅのメンバーとして活動の幅を広げている。勝手に埼玉応援隊、はすだ広報大使、埼玉新聞環境キャンペーンエコ贔屓広報大使。

---

埼玉新聞環境キャンペーン
## ECO贔屓

埼玉新聞の環境キャンペーン「エコ贔屓（ひいき）」は、おかげさまで13年目を迎えました。

読者のみなさんやキャンペーン参画企業・団体へ呼びかけて、県内各地でドングリを集めることからスタートした本キャンペーン。ドングリは県内の農業高校へ託し、生徒たちの手で大切に苗木へと育てていただきました。読者をはじめ県民のみなさんへ呼びかけて植樹した苗木は、1万5千本以上にもなりました。

さらに2011年からは、県が進める「本多静六の森づくり事業」として、久喜市狐塚の中川河川敷で森づくりにも取り組んでいます。私たちの「エコ贔屓の森」はまだまだ若い森です。地域のみなさんの協力を得て、これからもしっかりと育てていきます。

さて、森が育つように私たちの環境意識も成長し、変化してきました。13年目のキャンペーンは、その変化に目を向けます。特に国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に注目して身近に引き寄せ、地球の未来のために私たちにできることをさまざまな視点から考えます。

埼玉新聞はキャンペーンを通して、読者のみなさん、企業や団体のみなさんへ参加を呼びかけ、エコ贔屓の波をさらに大きな県民運動へ育てたいと考えています。みなさんの参加をお願いします。

お問い合わせ
埼玉新聞 エコ贔屓（ひいき）事務局
TEL.048-795-9932 FAX.048-662-6610
〒331-8686 さいたま市北区吉野町2-282-3
埼玉新聞社クロスメディア局内
https://www.saitama-np.co.jp

私たちは think the SAITAMA 埼玉新聞環境キャンペーン ECO贔屓 に協賛しています
※協賛社を随時募集しています。
令和３年３月27日現在

Gas One 株式会社サイサン
Coca-Cola BOTTLERS JAPAN INC.
SOMPO 損害保険ジャパン株式会社
co-op コープデリ コープみらい 食卓を笑顔に、地域を豊かに。
RESONA 埼玉りそな銀行
武蔵野銀行
一般社団法人 埼玉県歯科医師会
RUN FOR TOMORROW 株式会社 シタラ興産
アイルグループ http://www.i-ll-group.co.jp
ひとのときを、想う。JT 日本たばこ産業株式会社 北関東支社
埼玉縣信用金庫
株式会社スター交通 STAR KOTSU
発酵、健康、食の魔法!!! OH!!! Our Home Hanno
野菜の元気をお届けします。PICKLES New Traditional Taste
川口信用金庫
青木信用金庫
はんしん Linking Bank 飯能信用金庫